薬局における口腔乾燥の改善のための患者教育の取り組み

総合メディカル・ファーマシー中部株式会社　ハロー薬局蒲郡店[1]、中央調剤薬局[2]
江川仁美[1]、中島直彦[2]

【目的】

高齢者においては、加齢や薬剤の副作用、義歯の不適合による唾液分泌の低下で慢性的な口腔乾燥に悩む患者が多い。従って、乾燥に対する口腔ケアの知識が必要だが、その情報が提供される場はほとんどない。そこで、薬局において患者を対象に口腔乾燥の改善のための患者教育の取り組みを行ったので報告する。

【方法】

2018 年 4～6 月愛知県内 5 店舗において、同意を得た 65 歳以上の患者 98 名を対象に、乾燥の自覚症状と義歯の有無に関するアンケート調査および薬歴やお薬手帳などから薬剤の使用状況の確認を行った。アンケートは、口腔乾燥の問診の指標のひとつである Xerostomia Inventory（XI） による 11 の質問項目を用い、各 5 段階で自覚症状の有無を評価し、1 項目でも該当すれば口腔乾燥の疑いありとした。疑いのある患者にはその原因やリスクの説明および唾液腺マッサージや口腔ケア商品紹介などの患者教育を実施し、再来時にアンケート調査により経過を確認した。

【結果】

対象患者 98 名のうち、乾燥の疑いありが 40 名、なしが 58 名であった。義歯を装着している場合や使用薬剤数が多いと XI 合計スコアが大きくなる傾向がみられた。教育実施後、再来時アンケートが回収できた 22 名中、11 名の XI 合計スコアが低下し、自覚症状の改善がみられた項目があった。また、マッサージを実施した 9 名では、マッサージの実施頻度と効果に相関がみられた。さらに、義歯の調整を啓発できた事例や、口腔ケア商品やマッサージを実際に試したことで乾燥症状の改善を実感できて嬉しいという反応があった。

【考察】

薬局で口腔ケアに取り組むことは、薬剤師による疾患啓発や患者教育ができることに加え、口腔ケア商品を提供できる点で患者の口腔乾燥状態の緩和に役に立つことが示唆された。マッサージの実施頻度と効果には関連がみられたため、今後も継続のための支援をすることが重要である。

（本文：769/800 文字）